

かたくりの会

落合 啓次
(かたくりの会五條谷地区支部長)

平成27年4月に柏市文化連盟の園芸部門に加盟させていただきました。

本会は、昭和56年に山野草の好き者同士12名が集まり、発足してから35年が経過しました。会員も多い年は46名の時もありましたが、年々高齢となり現在は18名で活動しています。

主な活動は、展示会を年3回（4月下旬・6月下旬・柏市文化祭）、視察研修旅行、柏市高柳の山林に自生している「かたくり」群生地保全のために下草刈りなどを行っています。

山野草の鉢植え栽培で重要なこととしては、1日1回は鉢の状況を確認するようにすること、雨天以外は毎日の水やり、定期的な肥料の施しと消毒、寒さに弱い種類の保温対策、植物にあった土での植え替え、また、品種によって日本さくら草などは毎年の植え替えを要し、これらの管理を怠りますと植物の枯死や生長の妨げとなってしまいます。

会員は、毎年失敗を繰り返しながらも、今年こそは立派に育てて展示会で皆様にご覧になっていただけるようにと、日々楽しみながら頑張っております。



洋楽・パフォーマンス部門
柏市洋舞演劇協会

松岡 桂
(柏市文化連盟理事)

当団体は現在、今年度新しく加盟された方を含め、6つのバレエ教室で成り立っています。

各々の教室におきましてレッスンに励み、発表会など舞台を重ねております。また、コンクールでの受賞など、多くの活躍も見られます。それぞれの場所で、バレエという舞台芸術を学んでいる私共ですが、毎年、柏文化祭では多くの参加があり、一丸となって舞台を作り上げています。

10月の文化祭に向け、代表の指導者達が集まり打合せを始めるのは、年明けの1月末頃。それからは季節の移り変わりと同じくして、春、夏、初秋と打合せを行い、本番当日の頃はすっかり高くなった空を見上げ『今年もよい舞台となりますように！』と願い、本番に挑むこととなります。

こうして毎年、多くの方々と共に保りながら貴重な舞台の経験をさせて頂けること、とてもありがたく思います。

最後になりましたが、昨年春の第1回柏市芸術鑑賞会では、バレエの為に舞台の転換が必要となり、他の団体の皆様からご理解とご協力を頂きましたこと、大変感謝しております。

これからも、柏市の文化の発展と、より良い舞台のために、力を合わせて参りたいと思います。



編集後記

第63回柏市文化祭では皆様取材にご協力いただき、ありがとうございました。

特集記事「柏のむかし・地名の由来」はお楽しみいただけただでしょうか。

中村 汎扇

美術部門絵画
「洋画研・ひまわりの会」

金井 直美
(洋画研・ひまわりの会代表)

28年の文化祭では「自画像のある展覧会」として作者の自画像とともに1年間の集大成作品をパレット柏で展示しました。アクリルやデッサン、人物・静物・風景・抽象画など自由闊達な筆さばきの作品が並びました。中央公民館で毎月2回の定例会や屋外へ写生に出かけたりして美の世界に浸ったり、様々な展覧会に参加しながら精進しております。セカンドドライブを「絵画」で一緒に歩んでゆきませんか。



柏市文化連盟第9回文化講演会
「落語で笑って、人生エンジョイ」

(落語の歴史をもっと知ろう)

日時 平成29年1月27日(金)
14:00~16:00(開場13時半)
会場 アミュゼ柏 プラザ(1階)
入場無料

- 第1部 落語 湯屋番
あっち亭こっち
(社会人落語家 長田 衛)
- 第2部 講話 落語の歴史
社会人落語家 長田 衛(おさだ まもる)



お問い合わせ先：電話04-7163-0929(河村)

●イベントのお知らせ●

- 第23回柏窯会陶芸展〔主催：柏窯会〕
H29. 3/28~3/31 柏市民ギャラリー
- 第22回書南展
H29. 1/28~2/5 ひまわりプラザ(沼南近隣センター)

新規加入団体

- ★洋楽・パフォーマンス部門(柏市洋舞演劇協会)
MIHO Classic Ballet School 大立美帆
- ★民謡・民舞部門(沼南民謡舞踊連合会)
もみじ会 近藤和恵
- ★華道部門
専正池坊 翠弓会 高橋翠弓
- ★洋楽・パフォーマンス部門(柏市音楽協会)
柏千竹合唱団 藤原一俊

柏の樹



第24号

発行：柏市文化連盟 編集：柏市文化連盟広報委員会 事務局：柏市酒井根4-6-1 鈴木方 ☎04-7172-6759
柏市文化連盟創立：昭和34年(1959年) <http://kashiwa-bunka.net>

平成29年(2017年)
1月1日

柏市文化連盟 加盟団体 実りの秋に市内各所で成果発表



柏市文化連盟による

「柏市藝術鑑賞会」は今後とも市民の皆様の
絶大なるご支援をお願いいたします。



柏市文化連盟会長
鈴木 将勝

新年明けましておめでとうございます。

本年も市民の皆様と楽しい、希望の町「柏市」に文化の面で全力支援していく気持ちでございます。よろしくお願ひ申し上げます。

さて、昨年度リオオリンピック、パラリンピックが開催され日本選手団の素晴らしい活躍に国民は一つになり湧きあがりました。まさしくオリンピックイズムでした。

また、昨年第一回「柏市藝術鑑賞会」を賛助会員、市民の皆様のご支援を受け成功裏に開催できましたことは、四年後を見据えた素晴らしい企画と思っております。ありがとうございました。

そして市民一体のこのような祭典は来る東京オリンピックには「おもてなし」の大輪として開花するでしょうし、私たちの芸の向上につながります。また、近隣五市の文化の交流も盛んになっておりますが、さらなる友情を深め素晴らしい文化圏になって行くことを希望しております。

最後に、賛助会員さまの、ご健勝、ご多幸、をお祈り申し上げ挨拶といたします。

新企画

柏のむかし・地名の由来

現在の柏市を構成しているむかしの町や村は個性豊かな名前が付いています。その地名の由来について調べてみました。(2回目)

田中村

駿州田中藩の飛領地

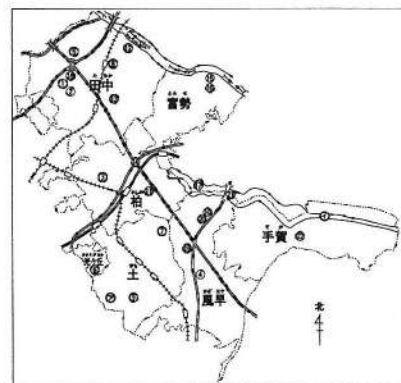
若柴を除く大部分は駿州田中藩(現静岡県藤枝市)本多侯の飛領地でした。本多侯は代々善政を施したらしく、例えば本多領が領地替えになった時など旧田中村及び付近の村々は連名の留任嘆願をしているほどです。それで町村制によって小村合併した時、旧領主の遺徳(?)を偲んで「田中村」としたのです。

富勢村

縁起のよいめでたい名

小村合併の際、布施村は古代からの下総から常陸へ出る官道の要津に当り、平安時代初期、布施屋(運搬者や旅行者のための宿泊所)が設けられ村名となったと言ひ、格式を誇り村民の財力も有りました。根戸村は同じように古代官道—手賀沼を渡って布施に出る要津で、さらに徳川時代になると水戸街道が出来て、小金—柏—根戸—我孫子と通ずる街道沿いの村となり布施と対抗するだけの誇りと力を持っていました。

新村名にはそれぞれ自分の村名を主張して譲りません。遂には各村名(布施・久寺家・根戸・宿連寺)の頭文字を採って「布久根宿村」とおかしな名まで出て結論が出ないまま、ときの郡長、武藤某氏に新村名を依頼して、縁起のよいめでたい名として「富勢村」(とみせ村)としました。富勢はフセとも読めるので、布施村の多くの人たちは後々までフセ村と言っていました。



「中学校社会科副読本」から

船戸

陸路と船路の十字交差点

江戸時代、幕府から正式に許された「渡し場」は柏市では布施の弁天様の傍らの「七里ヶ渡し」で戸頭の渡し、布施の渡し場とも言われつい十数年前までありました。正式の街道渡し場では有りませんが「船戸」も渡し舟が使われていました。江戸時代に利根川が整備され常陸、奥州などの船が外洋を廻る危険を避けて銚子から江戸へ往来するようになると、銚子—小見川—佐原—布佐—取手—関宿—流山…等の船の寄り場はいわば川港が栄えました。「船戸」もその頃から船の小休みところとなりました。船戸はもともと、江戸—千住—流山—船戸—筑波方面へぬける東山道と水戸街道の中間小通路に当たっていました。そこにはまだ命名されない船戸部落があったのでしようが、船運の便が盛んになると陸路と船路の十字交差点が船の着く所の意味で「船戸」となったようです。戸は「ところ」=場所を表します。根戸の戸も「根」(根本、重要、もの)の「所」の意味です。松戸も古い書物から馬津処(うまつど⇒まつど)が後に「松戸」となったと推定されます。

(河村)

クラシックバレエ、日本舞踊を披露 第63回柏市文化祭オープニングセレモニー

「柏から文化の誇り高らかに」のキャッチフレーズで第63回柏市文化祭は、10月8日のオープニングセレモニーを皮切りに、11月20日まで柏市内各所で多彩な文化行事が繰り広げられました。アミュゼ柏クリスタルホールに満員の観客が参加して行われました。オープニングセレモニーは、キャッチフレーズの作者・森昭治さんなどに鈴木柏市文化連盟会長から感謝状が渡されたあと、柏市洋舞演劇協会によるクラシックバレエ「パキータ」より、柏市日本舞踊連盟による日本舞踊「舞踊三題」が華やかに披露されました。(大沼) (写真はオープニングセレモニーの様)



柏市内見学バスツアーに お茶でおもてなし

茶道部門の
清風会、
あけぼの山で
(柏泉亭)
お茶席



柏市文化連盟茶道部門の清風会は、去る10月18日、あけぼの山農業公園の柏泉亭でお茶席をもうけ、柏市内見学バスツアーのみなさん20数人にお茶のおもてなしをし、和やかなひとときを過ごしました。

この日、柏市観光協会では柏市内の観光スポットを訪ね、柏の魅力を発見するバスツアーを開催しましたが、その観光行程にお茶席がもうけられることになり、柏市観光協会の副会長でもある鈴木柏市文化連盟会長の要請を受け、清風会がお茶席をしつらえることになりました。

当日、旧吉田家住宅歴史公園、こんぶくろ池、東大柏キャンパスを見学したツアーのみなさんは、あけぼの山日本庭園を通過して14時30分に柏泉亭に到着。お茶席を整えていた清風会の皆さんが、季節を表現したお菓子とお茶を運ぶと、皆さんはたのしそうに召し上がっていました。

このあと、ツアーの皆さんは、清風会の佐藤会長に茶道具についての質問をするなど会話がはずみ、心の通った茶会になりました。女性のある一人は「観光行程にお茶席が設けられると知ってこのツアーに参加しましたが、期待にたがわずお茶席は楽しく、昼食後のお茶は最高でした」と満足そうでした。

清風会会長の佐藤宗香(柏市文化連盟副会長)さんは「秋晴れの午後、ふくしま家様の美味しい和菓子と一碗のお茶でおもてなしささせていただき、和やかな楽しいひとときを共有できましたことを、感謝しています」と語っていました。(日高)

山田先生、 シルクロードを語る 柏市文化連盟主催の第8回文化講演会

柏市文化連盟企画委員会企画の第8回文化講演会が、9月12日満席のアミュゼ柏プラザ1階で行われました。

講師は山田勝久先生(二松学舎大学講師・大阪教育大学名誉教授)で、講演テーマは「シルクロードの光彩・夢とロマン」。

先生は講演に先立ってあらかじめ用意された模造紙に講演テーマのキーとなる例えば「敦煌」「絲綢之路」などの言葉を大書した何枚もの用紙を、講演に沿って次々と披露するとともに、ときどき映像も使うなど来場者の聴覚と視覚に訴えながら、シルクロードについて約2時間講演しました。

こうした手法と、シルクロードへの豊富な体験に基づく先生の迫力ある講演は来場者を魅了。終了後、会場のあちこちから「わかりやすくてよかった」という声がかかりました。ある女性は「先生の講演はほんとうにすばしかったです。私もシルクロードに行ってみたくりました」と語っていました。(日高)

